我孫子オーディオファンクラブ訪問の記録
日　時：平成２０年６月１４日
場　所：我孫子市根戸小学校、その他
出席者：大塚（記）

１．訪問に至った経緯

神部会長より我孫子オーディオファンクラブのホームページを教えてもらい、その充実した内容および、熱心な活動ぶりに感激した。また今後、会を発展させていく上で参考になると考え、メールで「６月１４日に見学させてください」と送信したところ、我孫子オーディオファンクラブの佐藤会長から「心よりお待ち申し上げます」とのありがたいお返事をいただき、訪問することが決定した。

例会の会場は駅から離れた距離にあるとのことで、我孫子駅改札口に９：３０待ち合わせと事前に電子メールにて確認した。

２．当日の記録

１）例会開催前

９：３０　我孫子駅において山本副会長、大久保理事と待ち合わせ。

９：４５　定例会場である根戸小学校２階に案内され佐藤会長を紹介される。

１０：００～定例会開催

開催に先立ち自己紹介を行った。

紹介があると予測したので準備した以下囲いの文章に即して行った。

なお、今回の訪問は運営のノウハウを吸収することを三割以下の目的としているので、当方が抱えている問題は基本的に相手に伝えている。

Ａ．京都オーディオ倶楽部について

平成１６年１２月に設立されたオーディオ愛好家が集まる任意団体であります。

現在、会員は１３名で、最年少は３３歳、最年長は今年古希を迎えます。会員の職業は様々で会社員から会社経営者、一線を退いた悠々自適の団塊世代、果てはオーディオの代理店を営んでいる人まで様々であります。

定例会は月一回開催され、第三日曜日に開催されます。定例会の開催場所は京都府八幡市にある京都オーディオ倶楽部会長が経営している会社の休憩室を借りて、わいわいがやがやとオーディオ、音楽、うまいもの、美女（当会には女性がので居ないので・・・・）等、人間が持ち合わせている欲望について激論を交わしております。

年に１～２回、定例会の会場を離れ、オーディオ店やオーディオを主体とした喫茶（もっぱら JAZZ 喫茶）を訪れています。その大半は冷やかしでありますが・・・・

ジャンルはクラシック、ＪＡＺＺ、ロック、その他を聞く人、単純にオーディオ機器の音が好きな人と様々であります。どのジャンルが一番良いのか・・・・それはやはり各会員自身が聞くジャンルが一番良いのでしょう。また、それに反映して各会員が我が家で聴く音がもっともニュートラルでもっとも良い音であると考えております。

オーディオにおける本道とは何か、それは「自己満足である」というのが京都オーディオ倶楽部の会員が共有している意見であります。

Ｂ．今回訪問する主旨について

任意団体を運営していく上でもっとも大事なものは何か、それは継続であると考えます。京都オーディオ倶楽部は設立から丸三年半を迎えました。最近特に感じるようになったことは、マンネリ化の兆候が見えかかっていることであります。

運営側はマンネリ化対策をある程度、講じてはおりますがノウハウがないことから、少々の手詰まり感があります。

今回、訪問しようと思ったきっかけは、我孫子オーディオファンクラブのホームページを拝見して、その熱心な活動ぶりにいたく感激したからであります。

製造業では先導を走っている製品のことをフラッグシップといいます。また、それら他社製品の良いとこ取りをおこなうことをティアダウンといいます。我々（京都オーディオ倶楽部）にとって我孫子オーディオファンクラブはまさにフラッグシップであり、その活動内容をティアダウンしマンネリ化打破の参考（ベンチマーキング）にしたいというのが今回の目的の一つであります。

あと、もう一つの目的は同じ趣味を持った人々との親睦を深めたい。仲間に入りたいと思ったからであります。これが動機の七割以上を占めます。

年齢構成、専門分野が異なる仲間が 10 人以上も集う組織というのはお互いになかなか無いと思います。やはりオーディオはすばらしい趣味だと感じる今日この頃であります。

堂々とスパイすることを公言しておりますが、よろしくお願いします。

２）例会の様子

例会は二部構成で進行される、各担当が好きなテーマ（テーマに制限はない）を１時間以内で発表する。

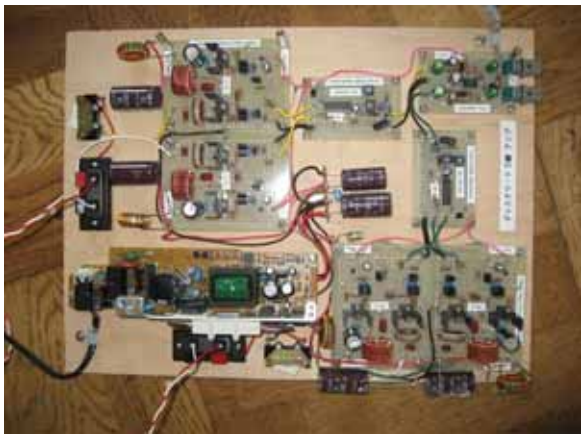
第１部　　清水氏よりベルリンフィルのヨーロッパコンサートにおける演奏会の模様をＤＶＤで発表される。

レジュメは紙一枚であるが、その内容からかなり引き出しの多い方であると感じた。後にＣＤの所有枚数を聞いてみると、８０００枚と私の倍以上を所有しているとのこと、完敗です・・・・

第１部の様子

第２部　　石井氏より自作の CD プレーヤー、デジタルアンプ、古いプリメインアンプの改良バージョンの試聴会。

特にプリメインアンプについては、車でたとえて小型車をエンジンからフルチューンした仕様と例えたらよいのか、そのような印象を得た非常に興味深い音を奏でていた。



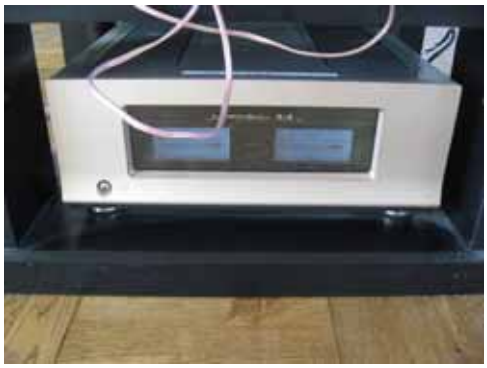
石井氏作のデジタルアンプ

プリメインアンプの改良

我孫子オーディオファンクラブ佐藤会長と

定例会終了後に記念撮影

会員の方と昼食を取り、その後、根戸小学校に戻り、しばし会の運営方法について歓談を行った。その内容については　**４．まとめ**　を参照



我孫子オーディオファンクラブの所有システム（スピーカーを取り忘れ‥‥ゴメンサイ）

３）会員様のお宅訪問

１５：３０　　根戸小学校を後にし、会員の越川氏のお宅を訪問する。

越川氏宅において DVD 鑑賞会を行った。当初はベルリンフィルのヨーロッパコンサート、プロコフィエフ「ロメオとジュリエット」およびベートーヴェンのロマンスを鑑賞したが、越川氏秘蔵のレーザーディスク「美空ひばり芸能生活３５周年記念、日本武道館コンサート」が出色であった。このとき、佐藤会長、清水氏も同席していたが、やはり演歌（というより美空ひばり）はよいものだとお互い認識して、１７：２５に越川氏宅を後にした。

パラゴンは残念ながら故障中・・・・

タンノイのカンタベリーで鑑賞する。

越川氏のシステム（マッキンがメイン）

美空びばりが圧巻

4）懇親会

１８：００　　我孫子駅前の居酒屋で佐藤会長、山本副会長、大久保理事、清水氏、濱口氏、堀端氏と懇親会を行った。

左から濱口氏、大久保理事、堀端氏

共にオーディオ、音楽を心から好きなのだということを確認し、共に同じ志を持った仲間（若輩者の私にとってはありがたい話である）であることを認識し、実に楽しい時間を過ごすことができた。

３．我孫子オーディオクファンクラブについて

１）我孫子オーディオファンクラブの活動内容

我孫子オーディオファンクラブは１９９５年に設立された。

会費は年間２，０００円

定例会は月に二回、１０：００集合で会員がイベントを一時間担当し、１０分の休憩を挟み２回のイベントが行われる。

イベントは持ち回り制で大体半年に一度当番が回ってくる。

定例会はお菓子、ジュースの持ち込みはなし。

夜は会の名称を我孫子アルコールファンクラブに変更し、懇親会を行っている模様である。

会場は公共施設の根戸小学校と久寺家近隣センターの二カ所を適宜使用しいている。

装置は根戸小学校ではラックスマンのコントロールアンプ、パワーアンプ、ＣＤプレーヤー、タンノイのモニタースピーカーを用いている。久寺家近隣センターで使用しているスピーカーはタンノイの GRF メモリーである。

これらの機器は創立者で元会長である井上氏（故人）の遺言により会に寄贈されたものである。

寄贈してくれたのは井上氏が会に対し深い愛情を持っていたこと、遺志を理解した上で大切に取り扱ってくれるという確信を故人が持っていたことと推測する。

また、故人が愛情を注いでいたオーディオ機器を第三者に二束三文で売却されるより、気の置けない仲間に引き取ってもらった方が良いとの遺族の理解もあったことと推測する。

会員は４８名であり、会員の募集は専らインターネットのホームページおよび地方公共団体（我孫子市）の広報を利用している。

2）社会奉仕活動について

市の広報に団体活動を掲載していることから、（不文律であるが）社会奉仕活動が求められるとのことである。

このため、我孫子オーディオファンクラブでは年に一回程度、プロの音楽家を招聘し音楽コンサートを主催している。

会員から演奏家を紹介してもらったそうで、演奏家は手弁当で参加してくれるとのこと、しかし、ただ単なる知り合いのつてだけで演奏家がロハで活動してもらえるほど世の中は甘くない。

他人に手弁当で活動してもらうためには、報酬以外のインセンティブがなければならない。それは「参加して良かった」という満足感である。そのためには、まず、自身が熱心にならねばならない。演奏家が手弁当で参加してくれ、かつ継続的に実行できているということは、運営側もそれだけ熱心に活動しているからと推測する。

これら活動内容の詳細を聞いている限り、義務として受動的に活動しているのではなく、それを自己の権利として消化し能動的に活動している・・・・もう少し簡略すると会員も活動を楽しんでいると感じた。

この活動による会のメリットとして以下のことが挙げられる。

1．会の広報活動の一環になること
2．イベントを行うことにより会員の意思疎通が図られ、ベクトルが重なること。

また、これらの社会奉仕活動が能動的に活動しているからこそ、音楽コンサートを訪れる人々の心を打ち、会員増につながっているものと推測する。

3）ホームページの運用について

ホームページについては、当初から書き込みを行ってきたそうだが、発表のアーカイヴを掲載するといった試みは３年ほど前から行われている。

我孫子オーディオファンクラブのホームページの管理者は堀端氏である。以前は別の方が担当していたそうだが、アップデートと仕事の両立が困難な状況になってきたらしく、パソコン処理の専門家である堀端氏に白羽の矢が立ったそうである。

世間一般で書き込まれているホームページは、初期段階では大変に充実しているものが多いが、そのうちに飽きてしまう場合が多くある。その原因はアップデートを怠るからである。

アップデートを実施しないことから、読者が読み飽きる、アクセス件数が減る、管理者のやる気が失せるといった負のスパイラルに陥りやすい。この場合の管理者におけるインセンティブとは読者の存在である。

私も充実したホームページ内容にいたく感心して連絡した口であり、ホームページの恩恵は大きいものであると感じた。

しかし、「最低でも１週間に２回はアップデートしている」との堀端氏の発言から、ホームページは継続させることが最低条件であり、これを怠るとかえってその存在が毒になるとも感じた。

４）２つの危機、その対処方法について

会が発足して１３年間、順風満帆であった訳ではない。会の存亡に関わる２つの危機を乗り越えた。

Ａ．分裂

どの団体でも同じ条件となるが人数が増えると、以下のような現象が生まれる。

ステップ１．会員がそこそこの人数に達すると派閥が生まれる。
ステップ２．派閥が生まれると同時に不満分子も生まれる。
ステップ３．不満分子が会の運営に不満を持ち叛乱分子に成長する。
ステップ４．叛乱分子が仲間を連れて脱退する。会が分裂する。

我孫子オーディオファンクラブもご多分に漏れず、叛乱分子による分裂が発生した。

しかし、会は継続することに意義がある。その継続を行う最低条件は何か、それは会場の安定的な確保である。この会場の確保というのはかなりのエネルギーを要する。なぜなら、会場を押さえる手続き、機器の保管場所の確保、定例会毎の運搬（ロジスティック）、＋α（運営の企画等）これらの作業負担が運営側に求められるからである。

これが初期の段階であれば、やる気、元気、根気が保てているので何とか処理できるが、人間の精神というのは不安定なものであり、毎回、このようなエネルギーを消費に耐えられるほど持久力があるわけではない。これはあくまで私の憶測である。

しかし、私の憶測を実証するかのように、分裂した会は現在消滅している。会場の安定的な確保というのは継続させる上では絶対条件である。

分裂した会側からの嫌がらせ等の攻撃はあったそうだが、基本的には相手にしない、大人の対応を貫いた。脱退した理由については聞かなかった。しかし、実に些細なできごとが発端であったことは、発言の端々からうかがい知ることができた。

Ｂ．会場施設が使用できなくなった。

最大の危機が訪れたのが、姉歯事件（耐震偽装問題）に絡み、これまで使用してきた施設が閉鎖されるため、会場の安定的確保が困難になったことである。

オーディオサークルを運営する上で開催場所の安定的確保はまさに死活問題である。１年ほどかけて根戸小学校と久寺家近隣センターの２カ所を確保することができた。

２カ所にしたのはリスクマネージメントである。

これらの危機を乗り越えたことにより、強固な地盤が形成でき現在に至っている。やはり、継続は力なりというより、力がなければ継続しないということを認識した（もっとも団体活動に限らず全ての事象に当てはまるが）。

４．まとめ

運営のノウハウをご教授いただいき、任意団体（特に趣味を通じた愛好団体）の運営に関して以下のアドバイスをいただいた。

１．インターネットのホームページを作成したほうがよい。
２．もう少し人数を増やした方がよい。
３．増やす手段として広報に活動内容を掲載したほうがよい。
４．イベントを行っている際は菓子の供給を止めたほうがよい。
５．友人同士ツルむという感覚も大事だが、もう少しメリハリをつけたほうがよい。
６．女性会員を入れる（最も困難な課題だが・・・・）。

これらの意見を今後の京都オーディオ倶楽部運営の参考にしたい。

今回の訪問において、我孫子オーディオファンクラブの方々から忌憚のない意見を聞くことができた。これは、同じ趣味を持った同士として認てもらい、かつ、問題を真剣に考えていただいた結果である。

突然の厚かましい訪問に対して、暖かく迎えてくれた我孫子オーディオファンクラブ会員各位に深く感謝する次第である。

１０月中旬頃に白馬において交流会を計画しているので、是非参加したい。また、京都オーディオ倶楽部の会員にも参加していただきたい。

以　上